



社内限資料



ピクテ・ファンド・ウォッチ 2014年7月11日
ピクテ新興国インカム株式ファンド(毎月決算型)

Pictet Fund Watch

相対的な割安感が続く新興国株式(2014年6月)

6月の新興国株式市場は上昇しましたが、新興国株式のバリュエーション水準は引き続き過去平均を下回る水準にあり、また、先進国株式に比べても割安感が強まっています。こうした中で、新興国株式市場への資金流入は続いており、新興国株式を下支えしています。

引き続き割安感のある 新興国株式

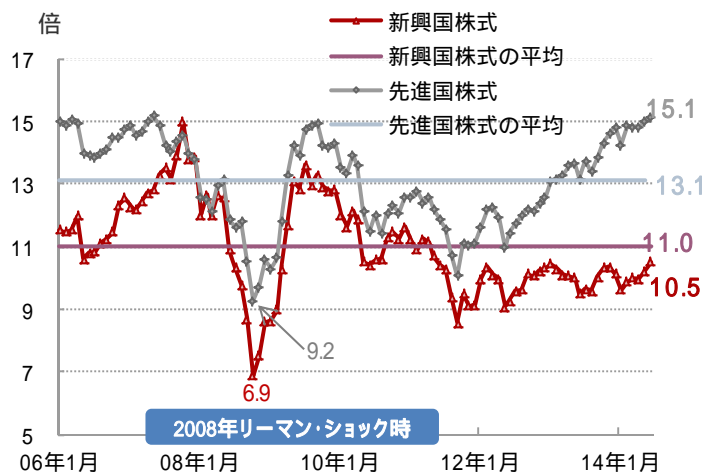
6月の新興国株式市場は上昇しましたが、新興国株式の予想株価収益率(PER)は依然として過去平均(期間:2006年1月末~2014年6月末、月次)を下回る水準にとどまっています(図表1参照)。

一方、先進国株式の予想PERは、2012年末以降、上昇基調にあり、引き続き過去平均を上回る水準です。

新興国株式は、相対的に高い利益成長が期待される中で、PERが低位にとどまっております割安感があると考えられます。

図表1: 予想PERの推移

(月次、期間:2006年1月末~2014年6月末)



相対的な割安感は、リーマン・ショック時以上に強まる

予想PERを、新興国株式と先進国株式で相対比較すると、2014年6月末では新興国株式は先進国株式に比べて3割程度割安な水準にあります。この水準は、リーマン・ショック時につけた水準よりも割安な水準です。相対予想PERの観点からは、歴史的な割安水準にあると考えられます(図表2参照)。

(次ページに続く)

図表2: 相対予想PERの推移

(月次、期間:2006年1月末~2014年6月末)



【図表1、2について】

PER: 株価収益率(株価 ÷ 1株あたり利益)

新興国株式: MSCI新興国株価指数、先進国株式: MSCI世界株価指数

予想PER: I/B/E/Sによる1年先EPS(1株あたり利益)予想に基づくPER
出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

上記はあくまでも参考指数であり、当ファンドの運用実績を示すものではありません。また、データは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

新興国株式市場への資金フロー、引き続き、資金流入傾向

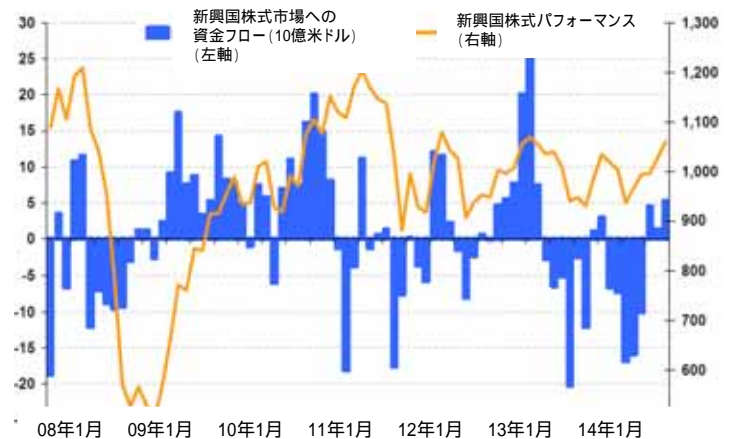
新興国株式市場への資金フローを動向を見ると、6月も引き続き資金流入傾向がみられました。

中国の景気先行きやウクライナ情勢に対する懸念に加えて、イラク情勢の悪化などの不安定要素は残されているため、こうした懸念が強まる局面では、新興国株式の値動きも大きくなる可能性があり注視が必要と考えられます。

その一方、足元では米国で景気回復傾向が見られており、新興国経済および企業業績も恩恵を受けるとみられます。こうした流れの中で、新興国株式のバリュエーション(投資価値評価)水準が歴史的、相対的に見て割安感があることは、今後も新興国株式の下支え要因となると考えられます。

(将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表3: 新興国株式と新興国株式への資金フロー
(月次、期間: 2008年1月 ~ 2014年6月)



新興国株式市場への資金フロー: 新興国株式ファンドへの資金流出入動向。

新興国株式: MSCI新興国株価指数(ドルベース、配当含まず)

出所: ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッドのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

上記は当ファンドの運用実績を示すものではありません。また、データは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が貴社 / 貴行内限として作成した資料です。当資料の投資者への配布、提示は法令違反となる可能性があります。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、情報の正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。